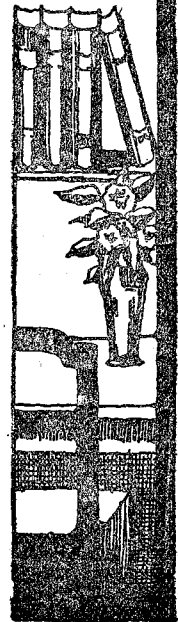


# 説苑

## 道路小觀



太田正孝

東京帝大在學時代のことである。

私は、松岡均平博士の交通政策の講議で『わが國には道路がない』といふことを筆記させられた。エライ亂暴なことをいふ先生だとおもつた。——たしかそのころは、やつと本郷の赤門前にマカダムロードを試作中であつたかとおもふ。明治四十二、三年ごろのことである。

大正三年に歐米に出かけて行つて、なるほど松岡さんのいふとほりだなと感じた。ベルリンの光る道——雨夜の水鏡。ロンドンの修覆されてゐる道路の厚いこと、パリの放射線の街々。——これが道である。それが路である。

アシダをはいて歩のを輕業のやうに考へてゐる外國人は、あまりにも道と名付けられないところを歩きまわる日本人の器用さに驚いてゐるであらう。

## 二

關東大震災のときのことである。

當時報知新聞を經營してゐた私は、幸ひにも焼け残つた新聞として、出来るだけの社會奉仕をしてゐた。ある日のことそれは復興局が出来て間もないときであつたが、私は後藤内相によばれて、霞ヶ關の官邸へ行つたことがある。そして、とても眼をまわすやうな何十億圓といふ大きい數字つきの復興計畫の輪郭を話されたことがある。道路、運河、橋梁と、地圖をもつて來さして、こまごまと説明された。話すのは後藤さんだけ、聞くのは私だけ――。

なかに、道路網をつくることのむづかしいわけを話されたとき、私は、「そんなに御心配なさるな。私ならこの焼野原で陸軍大演習をやつてみますな。そして、すべてを新しいものにして、理想の線を自由に引いてしまいます！」と申したところが、この思ひ切つた大きな案は、さすがの後藤さんの大風呂敷にもはiriきれなかつたものと見え、すむぶん驚かれた様子であつた。實は、私は、たしかロシアのピーター大帝が、こゝからこゝへ鐵道をかけよといつて、地圖の上へ線を引いたのが――そのとほり現實となつたといふ昔語りを思ひ出したのである。地圖のうへに書かれた山も川も、紙そのものは低くも高くもない平面にすぎないのである。

三

失業道路！

これは、産業のために必要だといつて計畫を立てたものを、財政緊縮の立て前から繰延べしたり、中止してしまつたものである。言葉をかへていへば、その繰延中止されたものは、いはば、放漫な道路と見られたのである。

しかし、財政に、經濟に、緊縮政策をとつた結果は、働きたい意思をもつて働く腕に仕事を與へずして、街頭に向つて失業者の洪水を押し出してしまつた。これを救済するために見出されたのが、道路工事である。あるひは河川改修である。それが、いはゆる失業道路と河川とである。

道にかはりはない。凹凸をなほし、一定の幅員のもとにならされた地面に人と物とを通す——それが道路である。道路そのものは、放漫なのではない。また、失業者のためにするものでもない。

四

いひ古るされた言葉として、世界の道はローマに通ずといふがある。——ほんとに、地方へ行つてみると、道路の有難さをしみじみと感ずる。

私は、靜岡縣の田舎——天龍川の岸で生れ育つた。その選挙區には、東海道筋であるにかゝはらず、少し山奥へはいると、鐵道などはおもひもよらず、愛知縣からはいれる方が早いところがある。自動車も通はず、全くの徒歩でゆかねばなら

